



見事さ・大きさ 県内有数!!
地元で育て守ってきたソメイヨシノ
北村哲三さん(67歳)日高町山宮



春、清滝小学校周辺で見ることができ、あふれんばかりの花びらを付けた桜の巨木群。その管理をしている地区住民のボランティア団体「清滝・桜の会」の会長が北村哲三さんです。

昭和4年、尋常神鍋小学校生が、卒業記念として清滝小学校前にソメイヨシノを植樹。以来、地元の方が植樹を続けてきました。通常、ソメイヨシノの寿命は数十年といわれていますが、北村さんは「管理次第では長寿となり、この桜は最長90歳。桜が元気なのは、先輩の皆さんや樹木医の指導、地元のボランティアのおかげ」と感謝します。これだけの巨木が集まることは珍しく「見事さと大きさは県内有数! 地区の宝」と胸を張る北村さん。4月8日(土)〜9日(日)には35回目となる「清滝さくらまつり」を予定しており、多くの方が桜のイベントを楽しめます。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲力強く大豆をつぶす参加者

みそ作り教室 半年後の出来上がりを楽しみに

2月24日、竹野地区公民館で、みそ作り教室が開催され、初心者3人を含む10人が、みそ作りの基本を実習を交えて学びました。

あらかじめ一晩水に漬けられ、煮られた大豆をつぶすところからスタート。講師で、みそ製造業を営む花房靖裕さんの「みそがうまくできるかどうかは塩の量で決まる。しっかり計量して」とのアドバイスの下、塩切りした米こうじとつぶした大豆を、手際良く混ぜていきました。最後は持ち寄った保存容器にみそを詰めました。

初めてみそを作った別角真奈美さん(竹野町竹野)は「半年後、どんなみそになっても責任を持って食べないと」と笑いながら話していました。

2017まるごとモンゴル雛まつり モンゴルの文化に親しむ

3月5日、日本・モンゴル民族博物館で「2017まるごとモンゴル雛まつり」が開催され、市内外から約440人が参加しました。

馬頭琴とドングラのミニコンサートや「シャガイ(家畜のくるぶしの骨)」を用いた競馬ゲーム大会など、モンゴルの文化を身近に感じることで催しの数々に来館者は興味津々。

小学校の授業で「スーホの白い馬」を読み、モンゴルに興味を持ったという渡辺琉斗君(8歳)は、妹の莉未ちゃん(5歳)と一緒に馬頭琴の演奏を体験。「前に、学校で弾いたことがあるので、今回は難しくなかった。楽しかったです!」と充実した様子でした。



▲馬頭琴の演奏体験

